

# 次世代への継承を加速



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34  
滋賀県遺族会館  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会長  
岸田 孝一

## 会長メッセージ

滋賀県遺族会長  
岸田 孝一



会員の皆さんにはお元気で毎日お過ごしのこととお喜び申し上げます。

平成28年度に入り、本格的に事業活動を始める時期となつて参りました。それぞれの支部の事業と共に県遺族会事業にもご参加くださいますよう、お待ちいたしております。

お願いいたします。そうし  
たことから、本遺族会  
も次なる世代に引き継  
いでいただけるように  
方向を切り替える時期  
に差し掛かってきたと  
思っています。

昨年4月18日に発  
足しました孫・ひ孫の  
会も、県内各支部より  
入会の申し込みが毎日  
のように送付されてき  
て、現在では290人  
余りとなつており、心  
強く思っております。

日本遺族会の主導で  
一日も早く全都道府県  
が足並みを揃えてのス  
タートと待っています  
が、未だ14県しか発  
足の無いよう、独自  
の継承をしなければな  
りません。会員皆様の  
アイディアやご指導ご  
協力をお願い申し上げ  
ます。

英霊の皆様は若き命  
を国に捧げられ、前途  
洋々であった人生を無  
理に止めなければなら  
なかつたことを想いま  
す時、今を生きている  
私たちに想像や理解  
すら出来ませんが、そ  
のような現実があった  
こと、それをしっかりと  
と次の世代に正しく伝  
えなければならぬ使  
命が私たちに勿論、遺  
族会にも課せられてい  
ると思ひます。

遺すことが出来るな  
らどんな方法であつて  
も取り入れていくこ  
と、それが人生を短く  
閉じられた多くの英霊  
の代弁者としての遺家  
族であると思ひます。

亡くなられた命を元に  
戻すことはできません  
ので、せめてこの世に  
居られた存在を形とし  
て後世に残すのは、彦  
根にありま滋賀県護  
國神社で建てられてい  
ます「英霊顕彰館」こ  
そが最善の施設である  
と思ひます。

亡くなられた人にす  
るのではなく、大事を  
成し遂げてくださった  
人を後世に脈々と伝え  
ることこそがこの平和  
な世の今を生きている  
者の責任だと思ひてい  
るの私だけではない  
と思ひます。残り少な  
くなつてきた人生を意  
義深いものであつたと  
言えるように、お互い  
に頑張らせていただき  
たいと思ひます。それ  
が多くの英霊が最も喜  
び、安心してくださる  
ことになるものとの認  
識をもつて、一年一年  
の活動をお願い申し上  
げ、年度当初のご挨拶  
といたします。

## 次世代遺族会の活動目的を模索

### 青年部女性部との合同研修会

### 平成28年度 青年部の組織化に向けて女性部との合同研修会



「青年部の組織化に向けて女性部との合同研修会」に参加した的場恵美子女性部会長(右)、重田美津子女性委員長(左)、辻正人青年部会長(中央)

平成28年4月22日  
から23日、東京都千  
代田区のKKRホテ  
ル東京で開催された  
「青年部の組織化に  
向けて女性部との合  
同研修会」へ、的場  
恵美子女性部会長と  
重田美津子女性委員  
長、私(辻正人青年  
部会長)の3人が参  
加しました。(参加  
総数136人)

会議は、各地域で  
の青年部組織化の進  
捗状況等の報告で終  
始し、日本遺族会青  
年部設立の具体的な  
期日は示されなかつ  
たものの、遺族会の  
活動を次世代の者が  
継承していく旨の共  
通理解がもたれ、一  
定の成果が得られま  
した。

課題は、世代交代  
に伴う遺族会離れと  
いう事実です。「メ  
リットがない・・・」  
時間がない・・・」  
70数年前、国家存亡  
の危機に命をかけて  
この国の形態を守つ  
た先人がいたことな  
ど想像もつかない平  
和な現在に生きる

我々にとって、自然  
な意見かもしれませ  
ん。そんな現状を英  
霊は、「平和であり

続けることを疑う余  
地もない国家とな  
り、それもまた良  
し」と達観されてい  
るのではないでしょ  
うか。

だからこそ思うの  
です。「今日の平和  
は、先人の尊い犠牲  
の上に成り立ってい

る史実を次世代の遺  
族が遺族会活動を通  
して後世に伝える」  
といった活動は重要  
であると・・・。

結びに、次世代の  
戦没者遺族が、活動  
の目的を見いだせる  
「種まき」と、現体  
制の継承が次世代遺

## 多くの犠牲忘れてはならない

### 西陛下フィリピン公式訪問

戦後70年を機に西  
陛下は平成27年4月  
にパラオをご訪問に  
なり、ペリリュー島  
の「西太平洋戦没者  
の碑」に花束を捧げ  
英霊に対してご冥福  
をお祈りされた。



カリヤの「比島戦没者の碑」に献花する遺族の皆さん

引き続き平成28年  
1月26日から1月30  
日までフィリピンを  
ご訪問された。日本  
遺族会の西陛下にお  
迎え事業に各県から  
1人の募集があり、  
参加した。西陛下は  
27日にマニラ市内の  
リサール公園を訪問  
され、フィリピン独  
立運動を指導した英  
雄「ホセ・リサール  
の像」に献花され  
た。またこの後、タ  
ギック市の英雄墓地  
にある大東亜戦争で  
犠牲になった身元不  
明の兵士が眠られる  
「無名戦士の墓」に  
献花し犠牲者のご冥  
福をお祈りされた。

この日の夜はマニ  
ラ市内のマラカニア  
ン宮殿で晩餐会に出  
席され、先の大戦に  
おいてフィリピンの  
多くの人が命を失  
い、傷ついたことに  
ついて、「私ども日  
本人は決してこのこ  
とを忘れてはならな  
いことであり、この  
度の訪問に於いて  
も、私どもはこのこ  
とを深く心に置き、  
旅の日々を過ごす

た。西陛下が同碑を  
訪れるのは、197  
3年の建立以来初め  
て。慰霊碑の前には  
戦死した元日本兵の  
遺族85人と、在留邦  
人23人がお出迎えを  
した。

西陛下は碑に白菊  
の花を捧げられ、頭  
を深く下げて黙祷。  
その後、日本から参  
加した遺族に30分以  
上にわたつて話し合  
われ、前列に並んだ  
遺族一人ひとりの前  
に立ち止まり、お話  
しをじっくり聞かれ  
た。時には涙を流し  
ながら、戦死した父  
の写真を差し出して  
見せる遺族の手を握  
り「苦勞も多かった  
でしょう」などと励  
ました。

朝から少し雨が降  
っていたが、西陛下  
が到着されると共に  
止み、晴れ間が広が  
り碑にも光が差し  
て、これもきっと英  
霊が西陛下を待ちに  
待っておられたのか  
と思われた。

# 副会長あいさつ

## 次世代への継承が急務

副会長 川嶋之生(再任)

光輝ある滋賀県遺族会の役員を昨年引き続き選任され、何分浅学非才を顧みずお受けしたところですが、皆様方のご支援とご鞭撻をいただきながら、その重責を全うする所存でございます。

国民の8割が、先の大戦のことを知らない人々たちであり、戦争が風化されつつある現状で、本年1月、天皇・皇后陛下が高齢にもかかわらず、激戦地フィリピンへ慰霊の旅に行かれたことは、私たちが遺族にとつてこの上ない喜びで、感謝に堪えません。

私の父もフィリピン北部ルソン島キャンガン方面で戦死しており、カリラヤでの慰霊

碑参拝のお姿を拝見し、その感動はひとしおでした。

他方、遺族にとつて戦没者の遺骨収集推進法が成立したことです。戦没者240万柱の半数近くが、戦後71年経過した今も未収集であり、早期収集に期待し、一日も早く祖国へ帰還してもらいたいと念じています。海外戦跡慰霊巡拝での呼びかけで、誰もが「お父さん一緒に帰ろう」と涙ながらに呼びかけ、その願いは共通でした。これからの遺族会組織は、次の世代への継承が急務であると考えています。

私たちが歳を重ね、その行動は限られてきています。戦

没者の孫・ひ孫や甥・姪の世代に引き継いでもらい、永遠に平和を希求する活動、特に戦争の悲惨さ、生命の尊さを語り継ぐのは私たちの責務であることを強く決意するものです。今のこの平和が未来永

劫続くことを願い、決して二度と戦争を起さずにはなりません。

これからの事業に会員皆様のご理解とご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

副会長 大長弥宗治(再任)

この度の役員改選で岸田孝一會長の下、引き続き副會長の重責を担うこととなりました。前期は、英霊顕彰担当として2年間皆様のご支援をいただきありがとうございます。

今回は、総務企画部会担当副會長として、与えられた責務を全うする所存です。

高齢化する遺族会を存続させるため、次世代の組織作りを行い、平成27年4月に次世代組織として青年部の発足を

見ることができました。会員

向夏の候、会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、私こと本年度役員改選にて、前期に引き続き副會長の重責をお受けすることとなり、平成27年4月に青年部の活動等、情報交換しながら研鑽を高め、今できる活動を進めて行きたいと思っております。

英霊の顕彰と世界恒久平和実現への道」を、次の世代へしっかりとバトンを手渡すことが出来そうです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

副会長 木津美智子(再任)

担当として仰せつかり、責任の重大さを痛感しております。皆様にご迷惑をおかけするのではと案じておりますが、皆様の英知をいただきながら今後の遺族会活動や青年部の活動等、情報交換しながら研鑽を高め、今できる活動を進めて行きたいと思っております。

この6年の間に新しい言葉が

否応なく降り注ぎ、避けることはできませんでした。今、私は6年経ってこの環境に感

化されて生きています。

全国戦没者追悼式が毎年8月15日に行われますが、初め

## 安定した財政と組織の健全化

副会長 大長弥宗治(再任)

数も現在増加しています。今後の遺族会を担っていただく方々の組織化は出来ましたが、財政基盤を確立の上、次世代に引き継ぐことが私たちに求められています。

私たちは、平成12年4月の組織一体化の時、母たちが残してくれた財源と共に引き継ぐことができました。現在、その財政状況は高齢化に伴い特別員数は激減し、平成27年度末では387人となり、財政は極めて危機状況に

な

りつつあります。

健全な財政の確立と時代に

見合った適正な事業を行うた

め、財政事業改革特別委員会

の設置が、第199回理事会

で平成28年度から2カ年の期

限で承認されました。今後

は、委員会の会長として、全

ての事業を聖域なしに見直し

をお願いすることとなります。

改革には常に痛みを伴うこ

とがございます。安定した財

政事業の確立と、遺族会組織

の健全化を図り次世代に繋ぐ

ことは、母たちから引き継い

だ私たち遺児の務めであると思

います。実効性のある財政

## 各部が情報を共有し受け継いでいく

副会長 嶋場惠美子(再任)

役員改選により、今年度も女性遺児代表として、女性部会担当の副会長と日本遺族会担当の女性代表をお受けすることになりました。

前期は、加えて「次世代組織化特別委員会」の幹事長も預かり、遺族会の後継者としての「青年部の結成」に向けて取り組んできました。その必要性、趣旨などご理解していただき、各郡市の会長、女性部長を中心に地域で青年部への加入促進をしていただいたおかげで、1年目の昨年4月に三日月大造滋賀県知事をお迎えして「青年部結成大会」を開催することができました。

目的が達成され、一つの区切りが過ぎましたので、規約に基づき

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

今後ともご指導、ご支援よろしくお願いたします。

## 事務局長退任と副会長就任にあたって

副会長 角野彰夫(新任)

6年前の3月、突然の電話で「遺族会に行きませんか」と。しばらく考えて「よろしくお願します」と返事しました。

この6年、身近に、すべて戦争のことでありました。遺族、英霊、みたま、靖國・護國神社、呼びかけ、追悼、哀悼、巡拝、慰霊、日遺など、普段使われない新しい言葉がいっぱいでした。加えて選挙、政治など、今までの日常ではほとんど縁のない言葉でした。

この6年の間に新しい言葉が否応なく降り注ぎ、避けることはできませんでした。今、私は6年経ってこの環境に感

化されて生きています。

全国戦没者追悼式が毎年8月15日に行われますが、初め

て参加させていただいたこと

です。天皇・皇后両陛下

がご出席にお着きになり、

続いて国歌が斉唱されました。

会場の日本武道館の参列者約

7千人の君が代の大合唱は、

得体の知れないこみ上げる感

動を覚え、何もかも忘れて、

あなたも国に殉じ、その忠誠

を誓うようマインドコントロール

された瞬間でした。国家

命令で戦争に行かれた英霊は、

家族や友人、恋人と悲しみの

別れをしたのち、そのマイン

ドコントロールの中で、本当

の我を忘れて戦地に赴かれた

方も少なくないのではないで

しょうか。

私は、戦争を知りませんが、

この6年間に経験したことが、

これから私の人生に大きく

かわるものと思います。改

めまして遺族会員の皆様、役

員の方々など関係者の皆様に

感謝申し上げます。

今後におきましても、そうし

た経験を踏まえて「戦後71年を

経過した現状と、厳しい財政事

情において、遺族会の歩むべき

道を考えよ！」とのこと。副

会長という重責を感じる

役職名をいただいて、この先

## 今後の遺族会のあり方

副会長 藤澤喜八郎(再任)

戦後も早や70年が経過しました。当初、遺児たちが集まり設立した遺族会青年部から、青壮年部・壮年部・今の遺族会へと遺族会活動を続けて参りましたが、我々遺児も

全てが70歳を超す年令になりました。だんだんと気力・体力ともに衰えを感じるようになり、会員も減少していき

中、会員の誰もがこれから後、遺族会活動が何年続ければ

おられるかと思ひます。

しかし、この遺族会をここで解散することはできません

。これからも引き続き守って

いくにはどうすればよいか、

孫・ひ孫の方たちに「我が

家は戦争遺族である」との

認識を持っていただいて、引

き継いでもらうのがベストか

ます。

## 平和の燈火を次世代へ

副会長 木津美智子(再任)

向夏の候、会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、私こと本年度役員改選にて、前期に引き続き副會長の重責をお受けすることとなり、平成27年4月に青年部の活動等、情報交換しながら研鑽を高め、今できる活動を進めて行きたいと思っております。

英霊の顕彰と世界恒久平和実現への道」を、次の世代へしっかりとバトンを手渡すことが出来そうです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

副会長 嶋場惠美子(再任)

担当として仰せつかり、責任の重大さを痛感しております。皆様にご迷惑をおかけするのではと案じておりますが、皆様の英知をいただきながら今後の遺族会活動や青年部の活動等、情報交換しながら研鑽を高め、今できる活動を進めて行きたいと思っております。

この6年の間に新しい言葉が

否応なく降り注ぎ、避けるこ

とはできませんでした。今、

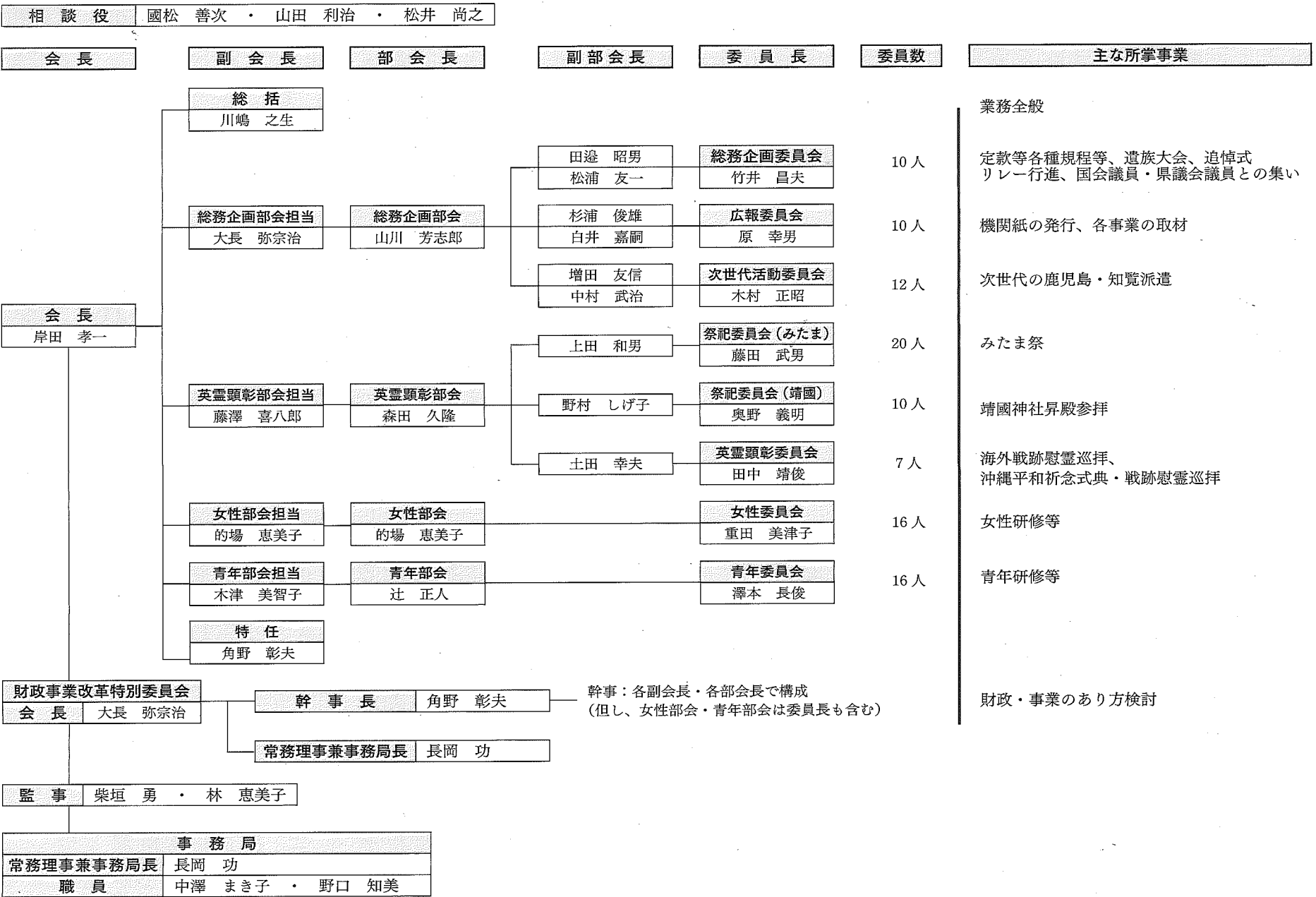
私は6年経ってこの環境に感

化されて生きています。

全国戦没者追悼式が毎年8月15日に行われますが、初め

て参加させていただいたこと

# 平成28年度～29年度 滋賀県遺族会 組織図



## 滋賀県遺族会 役員名簿

### 評議員名簿 (任期：平成28年度～4年間)

市町名	氏名	市町名	氏名	市町名	氏名
大津市	服部 清和	守山市	北川 正一	東近江市	福島 和彦
大津市	小林 俊造	栗東市	山元 新一郎	米原市	北村 哲雄
大津市	西村 一夫	甲賀市	大治 正雄	米原市	桂田 孝子
彦根市	夏川 嘉一郎	甲賀市	田畑 啓之助	日野町	瀬川 勲
彦根市	中村 正	甲賀市	北澤 幸七	日野町	横田 勝弘
長浜市	滝澤 吉興	野洲市	川波 慶一	竜王町	西村 久一
長浜市	脇坂 博	野洲市	永田 征二	愛荘町	森野 久嗣
長浜市	西川 満	湖南市	西岡 建己	豊郷町	久木 淳行
近江八幡市	岡田 伴之	高島市	藤本 励	甲良町	上野 正之
近江八幡市	井上 亮一	高島市	一井 久雄	多賀町	小菅 正之
草津市	伴 忠信	東近江市	福島 睦一		
守山市	岡田 明彦	東近江市	川戸 健一		

### 理事名簿 (平成28年度～29年度)

ブロック	郡市名	氏名	役職名
1	高島市	岸田 孝一	会長
	大津市	田邊 昭男	総務企画部会副会長(総務企画)
	大津市	田中 靖俊	英霊顕彰委員会委員長
	高島市	竹井 昌夫	総務企画委員会委員長
2	草津市	木村 正昭	次世代活動委員会委員長
	栗東市	野村 しげ子	英霊顕彰部会副会長(祭祀・靖國)
	守山市	山川 芳志郎	総務企画部会長(兼)財政事業特別委員会幹事
	野洲市	白井 嘉嗣	総務企画部会副会長(広報)
	湖南市	中村 武治	総務企画部会副会長(次世代活動)
	甲賀市	川嶋 之生	総括副会長(兼)財政事業特別委員会幹事
3	甲賀市	増田 友信	総務企画部会副会長(次世代活動)
	近江八幡市	杉浦 俊雄	総務企画部会副会長(広報)
	東近江市	藤澤 喜八郎	英霊顕彰部会担当副会長 (兼)財政事業特別委員会幹事
	東近江市	松浦 友一	総務企画部会副会長(総務企画)
4	蒲生郡	奥野 義明	祭祀委員会(靖國)委員長
	愛知郡	土田 幸夫	英霊顕彰部会副会長(英霊顕彰)
	彦根市	原 幸男	広報委員会委員長
	長浜市	森田 久隆	英霊顕彰部会長(兼)財政事業特別委員会幹事
	長浜市	木津 美智子	青年部会担当副会長(兼)財政事業特別委員会幹事
	米原市	大長 弥宗治	総務企画部会担当副会長 (兼)財政事業特別委員会会長
犬上郡	上田 和男	英霊顕彰部会副会長(祭祀・みたま)	
女性遊見代表		的場 恵美子	女性部会担当副会長(兼)女性部会長・ 日本遺族会女性代表・財政事業特別委員会幹事
青年代表		辻 正人	青年部会長・日本遺族会青年代表 (兼)財政事業特別委員会幹事
特任理事		角野 彰夫	副会長(兼)財政事業特別委員会幹事長
常務理事		長岡 功	事務局長

### 各郡市町遺族会 会長・女性部長・青年部長名簿 (平成28年度～29年度)

会長		女性部長		青年部長	
市町名	氏名	市町名	氏名	市町名	氏名
大津市	服部 清和	大津市	古川 祐美子	大津市	辻 正人
高島市	一井 久雄	高島市	北川 敏子	高島市	澤本 長俊
草津市	木村 正昭	草津市	重田 美津子	草津市	久保 博
守山市	山川 芳志郎	守山市	石井 ひろ子	守山市	林 祐美子
栗東市	織田 晃	栗東市	川崎 治枝	栗東市	甲斐 聡美
野洲市	白井 嘉嗣	野洲市	木村 和代	野洲市	三久保 忠俊
湖南市	谷 宗久	湖南市	長谷川あさ子	湖南市	牧田 聡美
甲賀市	増田 友信	甲賀市	北田 潤子	甲賀市	松下 泰也
近江八幡市	高木 健三	近江八幡市	辻 成子	近江八幡市	岡村 紀生
東近江市	藤田 武男	東近江市	西村 洋子	東近江市	辻 和雅
彦根市	山本 起美郎	彦根市	島路 トミ子	彦根市	川崎 謙次
長浜市	西川 満	長浜市	前田 いなえ	長浜市	隼瀬 大典
米原市	瀬戸川 恒雄	米原市	西川 尚子	米原市	木部 弘美
蒲生郡	瀬川 勲	蒲生郡	山崎 靖子	蒲生郡	貴多 正幸
(竜王町)	西村 久一	(竜王町)	-	(竜王町)	-
(日野町)	奥野 義明	(日野町)	-	(日野町)	-
愛知郡		愛知郡		愛知郡	
(愛荘町)	珠久 清次	(愛荘町)	前田 いそ	(愛荘町)	東 光行
犬上郡	上田 和男	犬上郡	-	犬上郡	-
(豊郷町)	上田 和男	(豊郷町)	-	(豊郷町)	-
(甲良町)	藤原 勝義	(甲良町)	-	(甲良町)	-
(多賀町)	田畑 金蔵	(多賀町)	杉江 弘子	(多賀町)	-

# 次世代戦跡訪問研修

## 平和への願い若い世代にも

次世代活動委員会

委員長 一井 久雄

第15回を迎える今年度の研修旅行は、3月27日から29日まで県内各地から応募のあった小学生38人と、来賓としてご同行いただいた滋賀県平和祈念館の木村直人主査、そして引率として滋賀県遺族会の役員10人にて実施しました。

私たち一行は、少し肌寒い滋賀県を後にして、特攻という無謀な戦術で前途ある多数の若者の尊い命を奪った特攻基地が数多く設置された鹿児島県を訪ねました。

夕方、大阪南港から大型フェリーに乗り、船中一泊16時間余りの船旅の後、鹿児島志布志港に到着。バスに乗り換え、最初の訪問先である鹿屋航空基地史料館を訪れました。海上自衛隊鹿屋航空基地の敷地内に開設されている史料館で、屋外には退役した海上自衛隊の飛行機やヘリコプターが多数展示されており、生徒たちは興味いっぱいでした。828人という特攻最大の戦死者を出した海軍「神風特別攻撃隊」の基地であります。遺族から提供された多数の遺影や遺品が展示されており、滋賀県からは22人の戦死者があり、内4人の遺影が展示されていました。

次に、万世特攻平和祈念館を訪ねました。ここは、日本三大砂丘の一つ、吹上浜に急遽突貫工事で造られた陸軍最後の特攻基地で、201人の隊員が出撃し戦死したとのことです。吹上浜沖の海底から引き揚げられた「零式水上偵察機」が展示さ

られています。志布志港から桜島を経由して薩摩半島の西側という鹿児島県を東西に横断するバス移動の長い一日の研修でした。夕食後、平和祈念館の木村主査から特攻隊のこと、特攻隊と滋賀県との関わり等興味深いお話を聞かせていただき、平和学習のひとつを過ごしました。

最終日は花瀬望比公園を見学。ここは開聞岳の西側の海岸にフィリピンで戦死された47万6千人余を慰霊するため、比島戦没者慰霊碑が建立されています。

次に、知覧特攻平和会館を訪ねました。陸軍最大の特攻基地であり、439人という戦死者を出し、滋賀県関係者は10人ということです。壁面いっぱい展示されている20歳前後の若者の遺影や遺書・遺品等を見ると、特攻をとおして戦争の空しさ、平和の大切さ・ありがたさ、命の尊さを再認識し、後世に語り継ぐ責務を深く認識するものがあります。語り部の話に全員メモを取りながら熱心に聞き入っていました。そのあと隣接する特攻平和観音堂において慰霊祭を行い、戦没者の慰霊と平和への願いを胸に全員献花をしました。

富屋食堂（ホテル館）では、特攻の母と慕われた「鳥浜トメ」さんのお孫さん、鳥浜明久さんからトメさんが実際に目にしてこられた特攻隊員の本音の姿、心情を聞き、目に涙をためてメモを取っている子どもたちを見ると、改めて二度とこのよ

うな悲惨な戦争はすべきでないとの思いを強くします。参加してくれた子どもたちが、この研修旅行で学んだ事、知った事をたくさん友だちに

## 学んだこと友だちにも伝えていく

彦根市立彦根南中学校 2年

吉岡 倫太郎

ぼくは、今回の次世代戦跡訪問研修旅行で大きく分けて2つのことを学びました。

1つ目は、戦争に対する知識です。たくさんの方々の話を聞いて、滋賀県の方々もたくさん戦争で亡くなられていることを知りました。特攻隊は、自分の戦艦機と一緒に相手の船などに突っ込んで攻撃するという部隊です。その中にはまだまだ若い人々が乗っていて、写真では笑顔が見られても、心の中では泣いておられたらと思うました。

特攻に行かれた人は、お母さん、姉、妹に遺書を書いて思いました。



知覧 特攻平和観音堂での慰霊祭

伝えてくれること、そして二度と戦争をしてはならないという思いが若い世代に広がることを期待し、有意義な研修旅行が全員事故なく終了できました。

を伝えていました。知覧特攻平和会館に行くと、中に入ったとき、外の空気とは全く違った空気がした。たくさんの方々の思いが詰まっている会館だと感じました。中には遺品などがたくさんありました。それを見てその当時を想像すると、とても怖く感じました。その人々をぼくに置き換えると、そんな笑顔でいられたらどうかと考えてみると、やっぱりできないと思いました。

ホテル館では1人の隊員の方々が、「ホテルになって帰ってきます」と言っていて戦争に行かれた後、本当にホテルが富屋食堂の天井に止まって、トメさんは帰って来たと思いき、そこにいた方々が歌を歌われたそうです。そう思ったたくさんの方々のことをぼくは学びました。

2つ目は、仲間の大切さです。仲間は、班行動をするときに自分だけの意見で行動してはいけなないと思えました。班のみんなの意見を聞いて、どこに行くかなどを決めなないといけなないことを学びました。ぼくはこの研修で、今まで全く知らなかった事実を知ることができました。この知識を自分だけのものではなく、学校の友だちなどの知識になるようにぼくが学んだことを伝えようと思っていました。

## 平成 28 年度滋賀県遺族会の主要事業計画

時期	事業名	備考
4月5日	滋賀県護国神社春季例大祭	滋賀県護国神社
4月15日	各都市遺族会会長・女性部長・青年部長会議	滋賀県遺族会館
5月20日	理事会、定時評議員会	滋賀県遺族会館
6月5日 ～7日	沖縄「近江の塔」平和祈念戦没者追悼式 戦跡慰霊巡拝	沖縄県摩文仁の丘
6月22日 ～24日	日本遺族会第55回沖縄平和祈願慰霊大行進 (参加担当都市：栗東市)	沖縄県糸満市
8月9日	第34回慰霊と平和祈願リレー行進、各市町要望活動 (訪問地：草津市、栗東市、守山市、野洲市)	県庁前、滋賀県護国神社ほか
8月13日 ～15日	第40回みたま祭	滋賀県護国神社
8月15日	政府主催全国戦没者追悼式参列 合同会議	日本武道館 滋賀県護国神社
8月20日	平和祈念滋賀県戦没者追悼式	県立文化産業交流会館
9月25日	滋賀県戦没者遺族大会	近江八幡市文化会館
9月下旬	理事会、都市遺族会会長・女性部長・青年部長会議	滋賀県遺族会館
9月下旬	皇子山陸軍墓地・滋賀県戦没者英霊塔 彼岸法要	大津市皇子山、膳所公園
10月5日	滋賀県護国神社秋季例大祭	滋賀県護国神社
10月5日 ～6日	日本遺族会第3ブロック会議	兵庫県姫路市
10月上旬	女性研修会	未定

時期	事業名	備考
11月上旬	海外戦跡慰霊巡拝(フィリピン)	滋賀県知事参加予定
12月4日	理事会、合同会議 国会議員、県議会議員とのつどい	滋賀県遺族会館 アヤハレークサイドホテル
12月中旬	日本遺族会戦没者遺族大会と国会議員陳情運動	自由民主会館
12月31日	除夜祭	滋賀県護国神社
1月1日	元旦祭	滋賀県護国神社
1月中旬	新年祈願祭	滋賀県護国神社
1月中旬	海外戦跡慰霊巡拝	未定
3月16日 ～17日	第43回靖国神社昇殿参拝旅行(第1班)	靖国神社ほか
3月17日 ～18日	第43回靖国神社昇殿参拝旅行(第2班)	靖国神社ほか
3月中旬 ～下旬	理事会	滋賀県遺族会館
3月下旬	次世代戦跡訪問研修事業	鹿児島県知覧ほか
毎月15日	滋賀県戦没者英霊塔月並法要、正副会長会議	膳所公園内
適時	海外戦跡巡拝写真展	随所
年3回	「遺族の友」発刊(6月、10月、1月)	

※青年部会の事業計画は未定

# 平和と安心の意味を実感した旅

野洲市立野洲小学校 5年

吉弘 悠汰

ぼくは、この2泊3日の研修を通して、1枚の写真に出会えたことに感謝しています。この研修では、主に4つの平和祈念館に行きました。その写真とは、『出撃前子犬と遊ぶ特攻隊の若桜』の写真です。

知覧は沖繩戦で、1,036人の隊員が戦死されました。その隊員の当時の仲間との楽しい写真でした。ぼくが今通っている野洲小学校全生徒約800人の約1.3倍位の人たちが亡くなられました。ぼくの身近な人たちが亡くなることの実感があまりなかったのですが、写真を見たとき、その笑顔に隠れている悲しさと命の重さが雰囲気として、ガンガンとぼくの心の中に入ってきました。その写真の前で立ち止まっていたうちに、タイムスリップしたように感じました。

帰って来てから友だちと遊んでいるときに、ふとあの一枚の写真が思い出されて、今友だちと一緒に笑っている自分がすごく

く何とも言えない気分になります。今の自分があるのも、あの当時の兵隊さんがいたからこそ今の自分があるのだと感じました。

# 若者の未来を消した戦争

高島市立安曇川小学校 6年

永見 まゆ佳

戦争とは、『国と国とが武力を使って争うこと』と辞典に書いています。しかし、実際に起こった戦争は私たちの想像のつかない、こんなにむごいものだったとは思いませんでした。特別攻撃という多くの爆弾をつんで飛行機もろとも敵軍に体当たりし、自爆するという残酷な戦術を使っていたからです。

私がこの次世代戦跡訪問研修

旅行へ参加しようと思った訳は、昨年戦後70年の節目として放送された番組などで、『特攻隊』という言葉が耳に残り、もっと詳しく知りたいと思ったことと、広島に修学旅行へ行つた時、『戦争は忘れてはならないことなんだ』と感じたからです。

私がこの3日間の研修に行き、心に残った場所は、鹿屋航空基地史料館と知覧特攻平和会

館の2つです。知覧特攻平和会館では、零式戦闘機がありまして、当時の人が実際にこの飛行機に乗っていることを想像すると、私はこれから出撃する人をとて笑顔で見送れないと思えました。そして、滋賀から来た方々が特攻隊として出撃して亡くなっておられた。ほかに、もうすぐ出撃される特攻隊の方が書いた、最愛の家族への遺書や血書などが展示されていました。たくさんの方がお国や家族、大切な人のために自ら命を捨て、出撃するなんて私にはできないなと思

ました。『戦争の記憶が遠ざかる時、戦争がまた近づく』という言葉があります。二度と戦争をしないために、大切な遺品を寄付してください。特攻隊の方ができなかった親孝行や、明日を生きようとして生きられなかった人たちの想い、命の尊さ大切さ、平和の尊さ、親を大事にすることや、私たちが鹿児島で学んだことを後世に伝え、私たちが若者が戦争のない平和な世界を築いていきたいです。



花瀬望比公園内「死生の扉」の前で、研修に参加した皆さん

## 平成27年度滋賀県遺族会 貸借対照表

科 目	当年度	前年度	増 減	科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>				<b>II 負債の部</b>			
1. 流動資産				1. 流動負債			
現金預金	12,109,354	13,955,294	-1,845,940	未払い金	1,399,582	2,494,010	-1,094,428
現金	29,894	31,550	-1,656	預かり金	106,792	109,802	-3,010
普通預金	12,079,460	13,923,744	-1,844,284	賞与引当金	404,399	637,733	-233,334
未収入金	0	10,000	-10,000	<b>流動負債合計</b>	<b>1,910,773</b>	<b>3,241,545</b>	<b>-1,330,772</b>
立替金	69,981	60,008	9,973	2. 固定負債			
仮払金	46,500	0	46,500	退職給付引当金	1,601,873	1,382,829	219,044
<b>流動資産合計</b>	<b>12,225,835</b>	<b>14,025,302</b>	<b>-1,799,467</b>	<b>固定負債合計</b>	<b>1,601,873</b>	<b>1,382,829</b>	<b>219,044</b>
2. 固定資産				<b>負債合計</b>	<b>3,512,646</b>	<b>4,624,374</b>	<b>-1,111,728</b>
(1) 基本財産				<b>III 正味財産の部</b>			
土地	235,500	235,500	0	1. 指定正味財産			
建物	11,649,952	12,198,902	-548,950	県補助金	6,911,160	7,224,256	-313,096
構築物	13,126,583	13,902,745	-776,162	寄付金	16,175,989	16,438,952	-262,063
基本財産預金	82,884,706	92,884,706	-10,000,000	<b>指定正味財産合計</b>	<b>23,087,149</b>	<b>23,663,208</b>	<b>-576,060</b>
減価償却引当資産	26,743,361	25,005,509	1,737,852	(内基本財産への充当額)	23,087,149	23,663,208	-576,060
<b>基本財産合計</b>	<b>134,640,102</b>	<b>144,227,362</b>	<b>-9,587,260</b>	2. 一般正味財産	123,894,697	133,787,333	-9,892,636
(2) 特定資産				(内基本財産への充当額)	111,552,955	120,564,155	-9,011,200
退職給付引当資産	1,601,873	1,382,829	219,044	(内特定財産への充当額)	1,601,873	1,382,829	219,044
<b>特定資産合計</b>	<b>1,601,873</b>	<b>1,382,829</b>	<b>219,044</b>	<b>正味財産合計</b>	<b>146,981,846</b>	<b>157,450,541</b>	<b>-10,468,695</b>
(3) その他固定資産							
建物付属設備	1,695,109	2,005,066	-309,957				
構築物	53,043	66,804	-13,761				
車両運搬具	1	1	0				
什器備品	271,989	361,011	-89,022				
長期前払費用	6,540	6,540	0				
<b>その他固定資産合計</b>	<b>2,026,682</b>	<b>2,439,422</b>	<b>-412,740</b>				
<b>固定資産合計</b>	<b>138,268,657</b>	<b>148,049,613</b>	<b>-9,780,956</b>				
<b>資産合計</b>	<b>150,494,492</b>	<b>162,074,915</b>	<b>-11,580,423</b>				
				<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>150,494,492</b>	<b>162,074,915</b>	<b>-11,580,423</b>

詳細は滋賀県遺族会事務局までお問い合わせください。

(単位：円)

# 70年の時を経て

## 寄せ書き日の丸古里へ帰る

70年の時を経て、今回返還されることになった日章旗は、昭和20年6月フィリピン・ルソン島で戦死した旧西押立村(現東近江市)出身の廣田平三さん(当時21歳)が戦地に持ち参し、米兵が戦利品としてアメリカへ持ち帰られたものである。

この日章旗は、アメリカでオークションに出されたものを、ディック・スタムフ夫妻が購入されたものである。ディック・スタムフ氏の奥さんは、1900

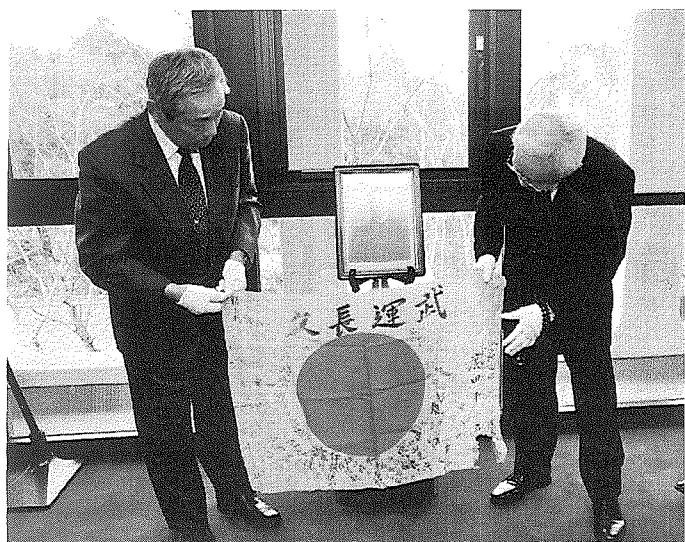
「この日章旗が日本のご家族の元に帰されることを嬉しく思っている」とのメッセージと共に日章旗が帰ってきた。「OBON2015」のジーク夫妻から、日本側委員である國松善次氏の元へ、平成27年11月日章旗の写真が送られてきた。

この奥さんは平成12年に亡くなられたが、最近、米国オレゴン州アストリアを拠点として「寄せ書き日の丸」の返還プロジェクトに取り組んでいる、レックス&敬子ジーク夫妻と「OBON2015」の活動を知り、

「この日章旗が日本のご家族の元に帰されることを嬉しく思っている」とのメッセージと共に日章旗が帰ってきた。「OBON2015」のジーク夫妻から、日本側委員である國松善次氏の元へ、平成27年11月日章旗の写真が送られてきた。

この日章旗が日本のご家族の元に帰されることを嬉しく思っている」とのメッセージと共に日章旗が帰ってきた。「OBON2015」のジーク夫妻から、日本側委員である國松善次氏の元へ、平成27年11月日章旗の写真が送られてきた。

この日章旗が日本のご家族の元に帰されることを嬉しく思っている」とのメッセージと共に日章旗が帰ってきた。「OBON2015」のジーク夫妻から、日本側委員である國松善次氏の元へ、平成27年11月日章旗の写真が送られてきた。



70年の時を経て返還された日章旗

### 第42回靖國神社昇殿参拝旅行

## 今年も父に会いに...

祭祀委員会(靖國) 中村 はる

靖國神社昇殿参拝は、昨年の41回目から二班に分かれて、計3日間に亘り行われるようになりました。私は第一班で参加しました。

3月13日早朝はとも寒くて、冬服にしようかと思うほどでした。お父さんが祀られている靖國神社は「一年に一度は靖國へ」の合言葉のもとに写真でしか知らない父の面影求めて参加しています。

3月にしては珍しく空は澄み渡り、新幹線の進行方向左から



雪をいただいた勇壮な富士山が飛び込み、車内は大きな歓声があがり、とても美しい眺めでした。

品川駅で下車すると、バスの停車場までの歩く距離が短くて大変助かります。

靖國神社では、神門前でバス号車ごとの記念撮影、境内の桜はつぼみがまだ固く閉じている中、参集殿では、岸田孝一滋賀県遺族会長の挨拶

第2班参拝団を激励する国会議員の皆さん(右から水落敏栄参議院議員、武村展英衆議院議員、大岡敏孝衆議院議員)

昇殿では、しばしの間父へ報告を行いました。その後、父

の遺影を奉納している遊就館を訪ねました。短い時間ですが、受付の方に掲揚場所を尋ねましたところ快く案内していただき、「たくさんの写真です。見つかりましたか」の言葉より先に父を見つけたと涙が溢れ出てきました。一年ぶりに、昇殿の父に語りかけ、たくさんの

仲間と一緒に並ぶ父の遺影に逢って、心が満たされるひと時を感じる事ができました。

その後、武蔵野陵の参拝を終えたバス車中は、靖國神社の奉獻酒やおやつをいただき大いに盛り上がり、親睦も深まりました。

また、靖國でお会いしましょう。



県下各地より参列された皆さん

### 護國神社春季例大祭

## 歴史を未来に伝える

### 英霊顕彰館に期待

絶好の花曇りの下、滋賀県護國神社春季例大祭が4月5日午前10時より、厳粛に齊行された。戦役・国難に殉じられた郷土の英霊を「祭神」としての縁で、本県選出の国会議員秘書、県議会議員、彦根市議会議員など、多数の来賓をはじめ、県下各地より650人の遺族、関係者が参列した。

まず、山本賢司宮司が祖國の弥栄と、としえに揺るぐこ

とのない世界平和を祈願した。

岸田孝一滋賀県遺族会長は、「歴史を未来に伝える。英霊顕彰館」の建設に大いに期待する旨の齊文を奏上した。

続いて、来賓、関係者による玉串奉奠があり、多賀大社巫女による「浦安の舞」の奉奏が行われた。

境内には、春休み中の子どもの姿も目立ち、物珍しそくに式典を見つめる外

代まで知ってほしいという願いを込めて、今般「英霊顕彰館」を建設中であるが、現在2,800件の申し込みがあり、5,000件を目標にしている。建物は5月末完成の予定だが、展示写真の整理に日数を要するので、秋季例大祭時には竣工を目指している」と挨拶があり、参列者一同の期待の拍手とともに11時30分閉式となった。

ここ数年、参列者が減少の一途をたどっているのは、遺族会員の高齢化によるものが主因ではあるが、残念なことである。今後は、昨年発足した青年部の理解と協力を得て、減少傾向に歯止めをかけることに努力を傾注すべき時機であることを痛感する。

(広報 原 幸男)

# 海外戦跡慰霊巡拝

## 命をかける覚悟強く感じた

### 中部太平洋方面戦跡慰霊巡拝

1月31日から2月4日まで、滋賀県遺族会主催の平成27年度中部太平洋方面戦跡慰霊巡拝に参加してきました。

今回の戦跡慰霊巡拝には、岸田孝一滋賀県遺族会長をはじめ滋賀県各地から15人が参加され、東近江市からは私一人の参加でした。

グアムに1日、サイパンに2日間滞在し、それぞれ午前と午後慰霊祭を行い、最後の2月3日午後の戦没者慰霊祭は滋賀県との合同慰霊祭でした。

サイパン島北端にある「中部太平洋戦没者の碑」の前で、最後の慰霊祭を行っていると、戦没者の涙雨とも思われるスコールに見舞われましたが、概ね天候には恵まれた戦跡訪問でした。

私の母の兄が17歳で海軍に志願し、昭和19年8月2日に若年19歳でマリアナ諸島で戦死しています。私は、サイパンを訪れるのは今回が初めてでしたが、一度は行ってみたいと思っていた地でした。昨年戦後70年の節目を迎え、今年訪問の機会を得られたことを嬉しく思います。

慰霊巡拝に出発する前に、亡く



サイパン島北端にある中部太平洋戦没者の碑

なった伯父と仲のよかつた小森章次さん(元八日市市議会議員)から、私の家にあつた一葉たばこの乾燥機に毎晩学友が集まり、一緒に勉強した話や、海軍志願合格者が記念に琵琶湖一周時に撮った写真のことなど話していただきました。

戦跡慰霊巡拝から帰ってきて、「写真が見つかった」と持つてきてもらつて見せていただいた生前の伯父の顔は、軍服を着た遺影の写真でしか知らないが、そこにはごく普通の若者が立っていました。

この写真に写るまだ若すぎる伯父の姿を見てみると、若者を戦場に向かわせた当時の時代の空気がやるせなく伝わってきます。「故郷と家族・知人を守るために出来ることは命をかける」との思いがあつたのか、多分やむにやまれぬ思いが「海軍志願」を決意させたのだと思います。

戦後70年、私たちは直接的な戦争を経験せずに、今日まで暮らしてきました。それは戦死した人たちが私たちに二度と戦争をしてほしくない、多くの人が悲惨な目にあう戦争を起こす国家をつくってほしい、との思いに支えられているように思われます。

この地で激しい戦争が行われたことを思い起こしながら、最後の慰霊祭で甲辞を読みましたが、何か体が震えてどうしようもできませんでした。悲惨な戦死者と戦争遺族を二度とつくりたくないために精一杯の努力をしていきたいと思

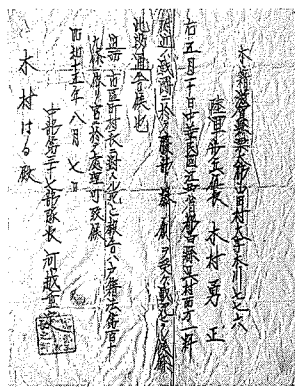
(東近江市 御園支部 支部長 山田 実)

# たじろひなみ

## 父の遺品発見に感激

草津市遺族会連合会 会長 木村 正昭

私の父は昭和15年5月、母24歳、私1歳1カ月を残して戦死したのです。当時の日本は連日勝ち戦で祝賀の提灯行列だったそうです。そのため、家長・長男は兵役免除の措置がとられていました



連隊長からの手紙

が、父は親類や母親の説得も聞かずに、国のため家族の幸せを願ひ、自分で志願して志願兵として戦地に赴いたのです。

母より父の遺品がどこかにあるとは聞いてはいたのですが、どこを探しても見当たりませんでした。母も亡くなり、先日、歳を整理した時、父の遺品と戦歴一式が一つの箱で出て来たのです。

日の丸の寄せ書き、従軍時のカバン、時計など。父はまだ幸せだったと思います。家族に多くの遺品を残してくれたのです。中でも、連隊長より母宛に戦死の様子を知らせる手紙があり、それを読んだ時、胸にジーンとくるものがありました。その他に戦歴の勲章、功労賞、従軍記章、父の戦死を知らせる新聞の切り抜きまで残してありました。

父の告別式は、小学校の講堂で村葬として営まれたそうです。写真でしか知らない父ですが、人のうわさを聞き男として憧れを持ち、誇りに思う今日この頃です。



日の丸に書かれた寄せ書き(右)とカバンや時計などの遺品の数々(左)

## 長崎被爆2世柿の木植樹

守山市遺族会 会長 山川 芳志郎

70年前の昭和20年8月9日、長崎に原子爆弾が投下されました。あたり一面焼け野原です。爆心地から約900m離れた若草町の樹齢約300年の柿の大木も被爆し、幹の半分が焼け焦げていたそうです。枯死寸前だったと思われ

ます。49年が経ち、家族は一度も柿の実をつけないこの木を切ってしまうおうかと相談されたそうです。でも、我家の歴史を見てきたこの大きな柿の木を切るの忍びないことと、海老沼正幸樹木医に相談します。海老沼氏は「やってみましょう」ということで、手当を始め、結果、柿の木は念願の柿の実をつけ、木自体も元気になりました。この被爆した柿の木の実から種子を取り出し、新しく苗木を育てることに成功されたのです。

守山市遺族会は、終戦70年の記念事業として、この苗木を譲り受けられないか、宮本和宏守山市長



被爆2世の柿の木の苗木を植える國松滋賀県遺族会相談役、宮本守山市長、山川守山市遺族会長、菅井守山市議会議長(左から)

寄贈 被爆2世の柿の木 昭和20年8月9日長崎に原爆が投下され無残にも一面焼野原に なつた爆心地から約900m離れた若草町の柿の木も被爆し、49年経ち、枯死寸前だったと思われ 樹木医海老沼正幸氏により、種子を取り出し、柿の木を育てることに成功した。 守山市ではこの苗木をゆすり受け、ここに植樹し、同じ犠牲者の命と平和の意思を後世に伝える場を設けたい。

柿の木の前に建てられた碑文

とも協議し、國松善次滋賀県遺族会相談役、小林俊造滋賀県遺族会評議員等のお力添えで譲り受けることができました。 昨年の8月6日の「平和を誓うつどい」で譲り受けた苗木を紹介しました。ところが、真夏です。真夏の植樹は好ましくないので、植樹に適した季節になった3月26日、守山市石田町の市民運動公園平和の広場に植樹しました。 植樹式では、宮本和宏守山市長、菅井昌彦守山市議会議長、國松善次滋賀県遺族会相談役、山川芳志郎守山市遺族会長の4人が苗木の根元にシャベルで土をかぶせ、琵琶湖の水を杉江周作守山市遺族会相談役、林祐美子守山市青年部長が注ぎました。 また、岸田孝一滋賀県遺族会長や山下裕子長崎県遺族会長も出席してくださいました。山下裕子会長は平和絵本「ふりそでの少女」2冊を守山市に贈ってください、早速守山市立図書館に置かせていただきます。 柿の木の根が張るように、市民や子どもたちに平和の心が根付くことを願っています。

戦後71年に想う

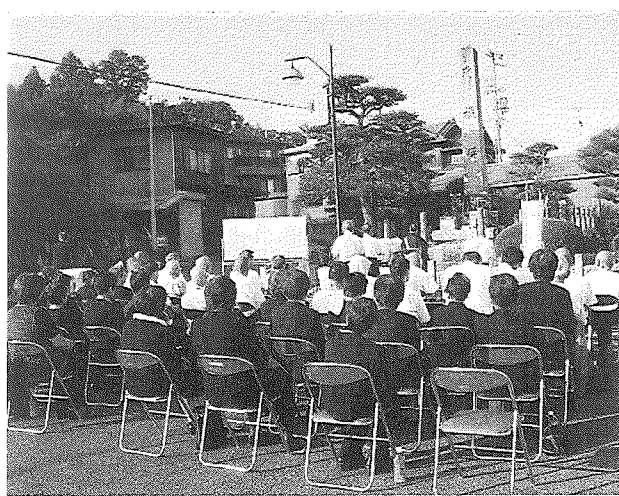
湖南市下田遺族会 会長 谷 諭

下田戦没者遺族会主催の慰霊法要を毎年8月と3月に忠魂碑前にて執り行つております。湖南市遺族会長、地元連合区長のご臨席を賜り、慶園寺住職に御読経いただいている中、遺族の方々が次々と焼香されている姿を見ていると、遺族会の維持が難しくなっている昨今ですが、恒久平和を願う私たちは戦争を風化させないためにも、このような慰霊法要を続けていく必要があると思ひます。

忠魂碑に祀られている100柱余りの英霊が、故郷の安泰と繁栄を願い、最愛の家族を案じながら尊い命を捧げられたことを忘れてはなりません。

戦死された戦没者のお墓をと、昭和28年8月に恩給の一年分で建てられました。その時の設立記念日に、遺児代表で小学校6年の時に答辞を読んだのを覚えています。その時より毎月順番に当番を決め、墓掃除を行い、英霊のご冥福をお祈りさせていただいています。

遺児も平均年齢が75歳以上の高齢となり、こうした慰霊法要やお墓の維持を子や孫・ひ孫にどのように継承していくかが近々の私たちに課された課題だと思ひています。



忠魂碑前での慰霊祭

親しみやすい広報紙を目指して

今般の役員改選で、伝統ある滋賀県遺族会の、広報委員長を拝命いたしました。

勿論その重責を担うに相応しい器ではありませんが、遺族会の抱える諸問題に眼をそらすことなく取り組み、また、地域のイベントや情報を積極的に取り上げ、皆様に親しまれる「遺族の友」の編集・発行に微力を注いで参りたいと思ひます。

い、お引き受けすることになりました。広報紙の優劣は、格調の高い論調や記事の多少ではなく、①一人でも多くの方々に読んでいただく②次号の発行を楽しみにしてもらえ③写真を多用するの④写真と考える⑤その意味で、皆さまの身近な情報や、ご意見を多数掲載し、親しみのある中にも勘どころを押さえた紙面づくりを心

がけたいと思ひます。一部地域に偏ることなく、県内一円の情報を平等に掲載することを第一義と考へ、各郡市長、委員長の方々はじめ、女性部・青年部の活動状況などの積極的な投稿をお願いし、充実した「遺族の友」を目指して広報委員一同努力を傾注する覚悟です。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。(広報委員長 原 幸男)

一般財団法人滋賀県遺族会事務局長に就任

長岡 功さん



この度、5月16日付で滋賀県遺族会の事務局長として採用され、勤務しております。

私が滋賀県遺族会を志望した理由は、我が国が平和で、これだけの経済大国となれたのは、大東亜戦争の戦没者のお陰であるということが決して過言ではないと、以前より強く思っております。

これは私事ではありますが、少年兵で予科練を経て特攻隊員だった私の義父(故人)は、出撃命令前に終戦を迎え、その後戦争未亡人であった義母(先夫は義父の兄で、ボルネオで戦没)と結婚したそうです。

その義父は、当時のことをあまり語ろうとはしなかった人でしたが、一度だけ特攻で戦没された同期の方々と戦死した3人の兄の話を知り、胸が締め付けられる思いをしたことを今でも忘れられません。

そのような思いがあった中で、英霊の顕彰をはじめ県内の遺族の方々への処遇向上、福祉の増進等の事業を主体とされている滋賀県遺族会が求人募集されていることを知り、お役に立ちたく応募しました。私の熱意が認められ、採用されるに至ったことに非常に感謝しております。

今後微力ではございますが、事務局長として努力精進する所存でございますので何卒ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

靖國参拝応募作品

今年も滋賀県遺族会靖國神社昇殿参拝の旅「俳句・短歌」を募集したところ、皆さんから感動の作品を寄せていただきました。前年に引き続き、俳句・短歌の選者から添削と講評を受け、今回掲載します。(広報委員会)

俳句 寺村 しげる・選

- 静まれる多摩の御陵の春の雪 残雪の富士を仰ぎつ石和の湯 (湖南市) 竹内 和子
春近し車窓に白き富士光る (長浜市) 山根富士子
靖國を照らす早咲き桜かな 杉木立静寂の御陵春浅し (長浜市) 雨森 貴子
春浅し鳥居をくぐりて宝前へ うぐいすの歌ふを聞きつ身延山 (東近江市) 井ノ口征子
春の宮遺児の数だけ歩む音 手を合せ鶯を聞く久遠寺 (愛荘町) 前田 いそ
春の宮不戦の誓い新たにす 参拝をすませ至福の春の旅 (竜王町) 堀井平次郎

【評】前年と比べると、投句数が少し減ったように思いました。靖國神社参拝のときの句だけでなく、旅程の中の甲州路の風物も詠まれ、春近し旅の趣が伝わってきて、大変結構だと思ひました。

俳句は、五・七・五の音律のきまりと、季語を必ず入れるという約束がありますので、先ずは、それを守ってもらわねばなりません。季語の入っていない句もありましたので、季語を補いました。毎日の生活の中の詩を見つけ、気軽に俳句を作ってみてください。今回の投句者増を期待しています。

短歌

磯崎 啓・選

凛とした空気がただよう武蔵野歴史の重み肌を感じつつ 都より早う来ぬかと呼ぶ父の御霊に詣でしばし語らう (東近江市) 井ノ口征子

【評】戦前・戦中・戦後の63年間の苦難の中を歩まれた昭和天皇陵を「凛とした空気がただよう」と歌った所に作者の万感の思いが籠められている。

靖國の父よ心にさげびつつみたまの前で感謝つたえる 新春は苦勞の中をながらえし母の背を見て傘寿迎えん (長浜市) 山根富士子
【評】戦死した夫亡きあとの苦難の中を、自分たちを守り育て上げてくれた母。その背を見つけて来た作者も80歳を迎えようとしている。時の流れは人を待つことはない。

靖國の遺児らで戦後を話しつつ記憶たよりに母を偲びぬ 玉串を捧ぐる滋賀の遺族会に遺影の父が眼に浮び来る (長浜市) 雨森 貴子
【評】この作者は生前の父の姿をしつかりと記憶しておられないのだろう。眼底に浮ぶのは、写真として飾られている「遺影の父」の姿である。いたましい一首である。

桜待つ社頭に立ちて頭垂る御霊の子等も八十路近づく 武蔵野の面影残る御陵に遥かになりし昭和を思う (彦根市) 原 幸男
【評】戦没者として祀られている人の子は、当然80歳前後の齢となる。また戦争の面影と共にある昭和天皇も、その崩御からすでに28年を経た。苦難に満ちた戦争の時代がますます遠くなつてゆく。今昔の思いがしみじみと歌われた二首である。

車窓より富士山見たと話しかく二人で見たい夢はかなわず 頭たれ父に告げたり孫二人の就職進学に微笑む顔を (愛荘町) 前田 いそ
【評】この「孫」は戦死した父にとってはひ孫にあたるのだろう。こうしてあなたのお孫二人が平和な世の中で元気に育っていますよ。戦死した父に見せてあげたい、そんな思いの籠る歌である。

生かされし老いの靖國慰霊旅今なき母に思い馳せつつ 老いの身で靖國社頭に頭垂れ往時を偲ぶ思ひかなしく (竜王町) 堀井平次郎
【評】戦死した父の後を守ってきたくれた母もすでにいない。その母亡きあとを受けて靖國への慰霊の旅に來た靖國の、子の思いである。淋しい歌だ。